

NCフライス盤による多次元曲面の加工と 技術教育への応用

高橋 燦 吉* ・木村 克彦** ・仲道 茂生***
中屋敷 武志*** ・金子 克彌*** ・中村 政美***
三上 晃***

The Work of High Dimensional Curved Surface by NC Milling Machine and Application to Technical Education

Sankichi TAKAHASHI*, Katsuhiko KIMURA**, Shigeo NAKAMICHI***
Takeshi NAKAYASHIKI***, Katsuya KANEKO***
Masami NAKAMURA*** and Akira MIKAMI***

Abstract

On Sept. 12, 1994, NC milling machine was set up at the Technical Center, Hachinohe Institute of Technology. Finishing 20th anniversary, with the stream of education and technical progress, we must understand the actual condition of the center and grope for courses to the future.

1. 緒 言

本学の工作技術センター（以下、センターと称する）にNCフライス盤が平成6年9月に設置されたので、センターの紹介とNCフライス盤の機能、利用、応用例について触れ、技術教育の応用へと発展せしめ、センターの技術レベルアップを目指しつつ、「良き技術は良き人格から生まれる」の本学建学の精神を改めて考えるものである。

従来、Educationを「教育」と訳しているが、その語源はラテン語のeducare（エデュカール、ひきだす）であり、まさに、教育の根本をついた言葉である。

教育のねらいは、知識を注ぎこむということではなく、学生一人一人の能力をひきだし、智力、創造への意欲を育てることであろう。

先ず、最近よく言われている高等教育の大衆化問題¹⁾に注目してみよう。

厚生省「日本の将来推計人口」（1992年9月）によると、わが国総人口は、約12,400万人であり、内18歳人口は2009年には120.4万人にまで減少する。このため、もし大学定員を94年入学者実績（四年大56.1万人、短大等25.6万人）のまま据え置くとすれば、2009年の対18歳人口大学進学率は両者合わせて68%に達する。

わが国の高校進学率が50%を超したのは、昭和29年（1954年）であったから、今日の大学進学率でさえ、すでに新制高校発足時（昭和23年）の高校進学率の水準に達している。予想される2010年の四年大進学率46%（対18歳人口）は、まさに昭和26年当時の高校進学率に近い。この

平成7年10月16日受理

* 工作技術センター・所長

** 工作技術センター・次長

*** 工作技術センター・技能職員